

## 古代中国の考古学

## 講座趣旨

今から53年前の1957(昭和32)年4月17日、原田淑人を団長とする訪中考古学視察団が香港・啓徳飛行場に降り立ち、日中考古学交流のさきがけとなる貴重な一歩を刻みました。国立大学系の研究者で構成された視察団の中で唯一私立大学から参加したのが当時明治大学教授であった杉原荘介氏でした。以来、前期旧石器のレプリカが中国社会科学院から寄贈され、青銅器・銅鏡等古代中国の資料の数々を収集するなど、明治大学が中国考古学と関わりをもつ端緒となりました。今回の「古代中国の考古学」では、日中考古学交流の夜明けから、中国における人類の登場、また日本の弥生・古墳時代に大きな影響を与えたと考えられる金属器の登場や墓に現れた思想など幅広いテーマから最新の研究をご紹介します。

## 受講をお薦めする方

日本考古学・中国考古学に興味のある方

日程	内容	講師
1 6/ 4(金)	日中考古学交流黎明期と今日	橋本
2 6/11(金)	中国旧石器時代研究の最前線	佐川
3 6/18(金)	中国東北部の初期金属器文化	小林
4 6/25(金)	中国鏡研究の新展開	新井
5 7/ 2(金)	墳墓考古学からみた古代中国人の世界観	黄

## 講師・コーディネーター紹介



橋本 裕行 奈良県立橿原考古学研究所総括研究員

1959年神奈川県生まれ。1985年明治大学大学院博士前期課程修了。1995年8月から1年間中国・西北大学にて研修。この間寧夏回族自治区固原にて北周田弘墓・唐史道洛墓の発掘調査、また1997年～2000年に前漢11陵・唐18陵の悉皆踏査に参加。専門は、弥生絵画・神社および神殿遺構・山岳信仰遺跡・東アジアにおける初期国家成立に関する研究など多岐にわたる。2009年度から日本学術振興会の科学研究費助成を受けて温泉の考古学的研究を開始。主な著作に「弥生絵画に内在する象徴性について」『原始の造形 日本美術全集1』(講談社1994)、「丹生川上神社再考」『日中交流の考古学』(同成社2007)、「封禪と道長」『王権と武器と信仰』(同成社2008)など。



佐川 正敏 東北学院大学文学部教授

1956年仙台市生まれ。専門は東アジア考古学で、1980年に北京大学に留学して以来、中国の旧石器・新石器時代の研究を始め、1986年から奈良文化財研究所で調査・研究。以来、古代都市史や仏教寺院、瓦作りの歴史について研究。2001年から現職。旧石器時代については近年、ハンドアックスや球形石器などのアフリカ起源とされる大型重量石器の広がりや消滅の問題や、東アジアにおける新人の起源と文化について関心がある。主な著作に、「最初の土器」『日本の考古学(上)』(学生社2005)、「日向洞窟遺跡西地区出土石器群の研究」(共著:六一書房2006)、「東アジアの大型重量石器を考える」『考古古代史民族学論叢(芹沢長介先生追悼論文集)』(六一書房2008)



小林 青樹 國學院大学栃木短期大学准教授

1966年群馬県生まれ。専門は、弥生時代と東アジアの考古学。岡山大学埋蔵文化財調査研究センターを経て現職。現在の課題は、東アジアにおける弥生時代の特徴と系譜について。主な著作に、「遼寧式銅剣の起源に関する諸問題」(『中国考古学』8号、2008)、「東アジアにおける銅戈の起源と年代」(『新弥生時代のはじまり』3 2008)、「盾と戈をもちいた儀礼」(『弥生時代の考古学』7 2007)など。



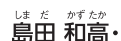
新井 悟 明治大学校地内遺跡調査団 調査研究員

1969年東京都生まれ。専門は古墳時代。2000年、明治大学大学院博士後期課程に学位論文『画紋帯神獸鏡の歴史的意義と倣製鏡生産』を提出、博士号(史学)を取得。古墳時代倣製鏡を中心に中国・朝鮮半島の鏡文化を研究するほか、学史的な視点から日本列島の古墳時代の諸問題に取り組む。



黄 晓芬 東亜大学人間科学部客員教授

1957年中国西安市生まれ。京都大学大学院文学研究科博士前期課程修了、博士(文学)。専門は都城と陵墓の考古学。主な論著に「中国古代葬制の伝統と変革」勉誠出版(2000)、「古代葬制の交流」『東アジアと半島空間』思文閣出版(2003)、「漢長安城建設における南北の中軸ラインとその象徴性」『史学雑誌』第115巻第11号(2006)、「漢墓と匈奴文化の研究」『草原帝国—匈奴研究』モンゴル社会科学院(2008)、「漢帝都長安の都市計画と造営理念」『古代文化』第61巻2号(2009)、その他。



島田 和彦・忽那 敬三 コーディネーター 明治大学博物館学芸員

『考古学ゼミナール』は、「市民のための考古学」の理念のもとに1987年から明治大学で開講されている生涯学習講座です。

## 講座概要

曜日	金曜日
時間	18:00~20:00
定員	150名
回数	5回
受講料	5,500円
教材	レジュメ資料
ポイント	★



武人の陶俑(漢代、明治大学博物館蔵)